

少年の主張

平成23年度最優秀賞

『今、私に出来ること』

八百津中学校3年
市岡 祐希さん



3月11日に東日本大震災が起こりました。私も、学校の教室で揺れを感じました。家に帰ってテレビをつけてみると、津波で流されている映像が出ていて、普通の地震ではないことはすぐにわかりました。大きな津波に、町がのみこまれ、多くの人が犠牲になった悲しい出来事でした。そんな中、ニュースや新聞で、常に飛び交う言葉がありました。それは“食料物資の不足”です。豊かになった日本でも、これだけの大地震が起これば、食べるものも運べなくなってしまうなんて、大変な事が起こっているんだと改めて実感しました。しかし、その直後、今度は被災地ではない所で、問題が発生しました。それは、日本各地で起こった、食料や物資の買い占めです。私は変だと思いました。なぜ、被害にあっていない人が、食料物資を必要とするのか…買い占めをする必要があるのか…と。もっと苦しんでいる人がいるのに、心ないことをする人がいると思いました。

私の住んでいる八百津町でも、カセットコンロや電池がなくなり、水やカップラーメンも品薄でした。愛知県に住んでいる親戚から、「うちの近くのスーパー、全然品物が無いよ。あったら買って！」という連絡がありました。よく考えると、買い占めた物資はすぐには使いません。それでも、ニュースや新聞で見た恐ろしい出来事を前に、人々は冷静な判断を見失っていました。もしかしたら、自分の町にも地震がくるかもしれない…今のうちに対策しておかなければ…そんな気持ちが日本国民の心を揺さぶっていました。

今、食べられなくて困っている人がいるのに、まず、自分のことを最優先にした結果が、買い占めです。冷静に考えれば、絶対に許されないことです。

この問題が起こった原因は、豊かになり、便利になった現代社会にあると思います。お金を出せば、

何でも手に入る日本。何か困難なことが起きても、たいていの物はお金で買えます。戦争中のように物を大切にする姿は、今の日本ではありません。その豊かさや便利さが、今回の問題につながったように思うのです。今、自分を最優先に考えてしまふのではなく、困っている人のことを考えてあげられる世の中になっていくべきだと思いました。

しかし、海外からは、日本のすばらしい所も言われました。“日本人は冷静で、被災者達が物の奪い合いをせず、列を作って並んで待つことが出来る”と言うのです。一方では各地で買い占めが起こっていますが、こういった時こそ、日本人の良い所を出さなくてはならないのです。今もまだ、被災地では多くの人たちが避難生活を続けています。私は、まだ中学生なので、被災地に直接手伝いに行くわけにはいきません。でも、今出来ることから協力していこうと思います。節電や節水、ニュースで現状を知っておくことなど、小さなことを続けて、思いが伝わるように努力します。今回の震災で家と家族を亡くした人がこう言っていました。

「人間は、ろうそくの明かりでも暮らしていけます。原発がなくても便利でなくても、家族が一緒にいられれば、何とかできます。」と。深い悲しみにあふれた表情でインタビューを受けていた男の人の言葉は、すごく胸に突き刺さりました。便利さや豊かさが当たり前の日本は、今この大震災をきっかけに、考え直す必要があると思います。中学生の私にも出来る小さな心がけを、毎日の生活の中で実践していこうと思います。みんなの小さな心がけが、日本を思いやり豊かな国に変えていくと思います。